

認定NPO法人 インド福祉村協会

近年のインドの発展は目覚ましいものがありますが、一方経済格差はますます拡大しています。昨年インド政府から発表された農村地域の経済状況によると、政府の予想よりもかなり悪く、インドの農村地域の4分の3は月間1万円以下で生活しているとのことでした。

当協会がインドの北部のクシナガラ農村地帯にインド福祉村病院（現地名：アーナンダ病院）を設立してから19年目になります。この病院には、収入が少なく今まで病院に来られなかった農村地域の住民が多く訪れ、1日平均90名、これまで述べ37万人を超える人々に医療を提供してきました。

患者の多くはマラリアなどの感染症ですが、近年増加傾向にあるのが高血圧症・糖尿病といった病気です。2013年～15年に当病院に来院した42,823人の患者のうち、15%が糖尿病と診断されています。自覚症状があり来院している人だけでこれだけの糖尿病患者がいるわけですから、地域全体ではどれだけの潜在患者がいるかわかりません。豊かとはいえない地域で糖尿病が増加傾向というのは不思議な感じがしますが、栄養バランスが悪い食事、痩せているように見せないために大量の砂糖を摂取するなど、健康に対する知識の少なさによる生活習慣の悪さがこの状況を引き起こしていると考えています。何も手を打たなければ働き手が少なくなり、さらに経済格差を生んでしまうことでしょう。

この状況を受け、今後私たちは糖尿病をはじめとする生活習慣病の予防・改善に向けた事業を展開する予定です。

（事務局長 請井政広）



山本左近理事長（右端）とインド福祉村病院スタッフ